

平成6年度・J A C I C「地質調査整理要領」 資料チェック上での注意点

研修委員会

1. はじめに

平成7年4月から地質調査資料整理はフロッピーディスクで提出することになりましたが、作成する基本的な内容は変わっておりません。昨年までの資料整理チェックを実施した時の作業上注意して欲しい点などまとめてみました。

例年、東北地質調査業協会は全地連から「地質調査整理要領(案)」に基づく地質調査整理資料のMT化(磁気テープ入力)に伴う資料のチェック業務を委託されております。

この業務は財団法人日本建設情報総合センター(J A C I C)が建設省東北地方建設局東北技術事務所から委託を受けた「平成5年度技術資料文献抄録等登録業務委託」の内、上記のチェック業務を全地連に依頼してきたもので、東北の分は東北地質調査業協会で行うことになったものです。

東北地方の地質調査業社の整理した資料をチェックした際、気がついた点及び今後注意して欲しい点を平成5年「大地」12号に掲載しました。しかし、まだ単純なミスが多いので再度まとめてみました。

2. チェック業務でミスが多かった点

2. 1 様式A(一般的事項)について

最も記入ミスが目立った様式は次に示す5項目に集約される(以下の文章中、①②等の番号は様式Aの項目Noです)。

(1) 項目④ 孔番

調査孔数とは→①の調査件名においての調査孔の総本数です。

調査孔番は →調査時に付した総本数に対するNo(通し番号)です。

※ 項目⑥のボーリング番号の通し番号とは違います!!④の番号を⑥の番号にはしないこと。

(2) 項目⑤ 整理番号

この中では西暦、組織コード及び資料番号を記入するようになっていますが、資料番号は建設省内部の番号(例えば河川、道路などの区分をする番号)であるので記入

しないでください。

(3) 項目⑥ ボーリング番号

1次、2次、3次コードの次にある通し番号は1/25,000の地形図を

経度で10等分 (No. 0 ~ 9)

緯度で10等分 (No. 0 ~ 9)

したメッシュ内(3次コード)での番号を意味し、あるメッシュの中で既存のボーリング資料があれば、その最終番号からの続き番号となることになります。このため、新しく登録されるボーリングNoはMT(磁気テープ)入力のためのチェック時(今回の業務)に決められるので様式整理時に記入しないで下さい。記入ミスの多くはここに調査時における通し番号を記入しているのが殆どである。

(4) 項目⑦ 位置(緯度、経度)

緯度、経度はあまり間違いはありませんでしたが、中には経度が大幅に違っており1/25,000の地形図にプロット出来ず登録から削除された資料があったので、記入の際は十分注意して下さい(調査場所の住所だけではプロット出来ない!!)。

建設省での調査ボーリングは、発注時に1/1,000の平面図を使用するのが多いはずです。調査地点をこの図面中にある座標値を読み取りBL計算で緯度、経度を求めることが出来るので、出来たら1/1,000の図面を利用して下さい。

どうしても利用できない場合は1/25,000の地形図が頼りになるが、この場合は「地質調査資料整理要領(案)」では次のように考えるようにしています。

緯度で1秒=0.96mm $\approx$ 1mm

経度で1秒 $\approx$ 1.23mm

として地点の距離を測って求めることが出来る。

今回のチェック作業では緯度と経度を逆に記入したもの、全く緯度経度の記入のないもの及び緯度経度が1/25,000の地形図から全くはずれるものまでありました。

(5) 項目⑧~⑬

概ね記入ミスはないが、項目⑬の室内試験内容と様式D(土質試験)の一致しない例が若干あった。

※ 図-1に様式Aを示すと共に上記の留意点と対照出来るように番号1)~5)で示してあります。

2. 2 様式B柱状図(地層区分)

この中でデータ番号、地層上限下限深度及び地質コードに関しては記入ミスはないが、地質名の中で岩の場合、岩質名では地質コードの変換は出来ないので軟岩、風化岩、中硬

岩及び硬岩で表示して下さい。

色調コード表中には茶色がありませんので褐色を使用すること。柱状図の同一層の中で色調が変化している場合はコードでの変換は出来ないので同一層で代表する色調をコード変換して記入して下さい。

2. 3 様式C標準貫入試験

標準貫入試験は最もミスの少ない様式です。数少ない記入ミスはデータ総数とデータ番号が一致しないものがありました。これは記入用紙が複数枚になったため転記する際の記入漏れ（N値の総数が少ない）ではないかと判断しました。

2. 4 様式D土質試験

一般事項（様式A）の中の項目⑬と一致しない事例が多かった。これも土質試験の一覧表からこの様式に転記する際のミスと思われる。

2. 5 様式E₁（孔内載荷試験）、E₂（現場透水試験）、E₃（P波速度S波速度）

チェックしたデータの中では資料数が少ないためか目立った記入ミスをするものではありませんでした。

3. 平成7年度からの登録について

資料整理の基本は「地質調査資料整理要領（案）」に基づいて行うが、今回新たに次の地質コードが追加された。

- ・「地質名：岩盤……………コード：9999」の追加

現行の岩に関するコード（硬岩……091、中硬岩……092、軟岩……093）で表現できない岩の場合に使用する。

- ・「地質名：不明、表現不可……コード：****」の追加

現行の地質名コードで表現できない場合（空洞、コンクリート等）に使用する。

詳細に関しては財団法人日本建設情報総合センター発行の「地質調査資料入力システム」を参考にして下さい。

参考資料(1)【チェック機能一覧】

様式A

一般的事項

1. チェック箇所

① 入力必須⇒△

② チェック機能⇒☆

2. 自動⇒○

項目	コーディング形式	情報の形態
① 調査件名	△	文字情報
② 調査場所	△	
③ 図面(縮尺)	△ 1/ ①位置図の縮尺 ②平面図の縮尺	数値情報
④ 孔番	①調査孔数 ②調査孔番	
⑤ 整理番号	△ ①西暦 ②組織コード ③は除く ④資料番号	
⑥ ボーリング番号	△ ①1次コード(1/20万) ☆ ②2次コード(1/2.5万) ③3次コード(基準メッシュ) ④通し番号	比較 数値情報
⑦ 位置(緯度・経度)	△ ①緯度 ☆ ②経度	
⑧ 孔口標高	△ ①孔口標高	
⑨ 行政区域	△ ①都道府県 ②市区町村	コード情報
⑩ ボーリングの方向等	△ ①地質の種類 ②掘進方向 ③は除く ④方位	数値情報 コード
⑪ ハンマー用具・掘進長	①ハンマーの落下用具 △ ②掘進長	
⑫ 孔内水位	①孔内水位	数値情報
⑬ 室内試験内容	△ ①比重 ②含水量 ③粒度 ④液性 ⑤塑性 ⑥密度 ⑦一軸 ⑧三軸 ⑨圧密	コード情報
⑭ 原位置試験内容	△ ①物理的性質 ②化学的性質 ③力学的性質 ④動的性質 ⑤特殊力学 ⑥岩石	
⑮ 施注機関	△ ①標準貫入試験 ②孔内载荷試験 ③現場透水試験 ④孔内速度検層	コード情報
⑯ 調査目的	△ ①ベーン ②コロージョン ③間隙水圧 ④物理検層(速度検層除く) ⑤その他	
⑰ 調査時期	△ ①西暦年 ②月	数値情報
⑱ 受託者	△	文字情報

JACIC 様式Ge401

図-1 様式A 一般事項(図中項目の①～⑱が本文中の①等に対応)